



【2016年7月11日～7月15日】

## 1. 先週の市場動向

### 【先週の市場の振り返り】

| ＜株式＞          | 先々週末<br>2016/7/8 | 先週末<br>2016/7/15 | 前週比    |
|---------------|------------------|------------------|--------|
| NYダウ（米国）      | 18,146.74        | 18,516.55        | 2.04%  |
| 日経平均株価（日本）    | 15,106.98        | 16,497.85        | 9.21%  |
| DAX指数（ドイツ）    | 9,629.66         | 10,066.90        | 4.54%  |
| FTSE指数（英国）    | 6,590.64         | 6,669.24         | 1.19%  |
| 上海総合指数（中国）    | 2,988.09         | 3,054.30         | 2.22%  |
| 香港ハンセン指数（中国）  | 20,564.17        | 21,659.25        | 5.33%  |
| ASX指数（豪州）     | 5,230.54         | 5,429.57         | 3.81%  |
| ＜リート＞         | 先々週末             | 先週末              | 前週比    |
| S&Pグローバルリート指数 | 192.17           | 193.27           | 0.57%  |
| ＜債券＞（利回り）（%）  | 先々週末             | 先週末              | 前週差    |
| 米国10年国債       | 1.358            | 1.551            | 0.193  |
| 日本10年国債       | ▲0.282           | ▲0.225           | 0.057  |
| ドイツ10年国債      | ▲0.189           | 0.006            | 0.195  |
| 英国10年国債       | 0.735            | 0.834            | 0.099  |
| ＜為替＞          | 先々週末             | 先週末              | 前週比    |
| ドル円           | 100.54           | 104.88           | 4.32%  |
| ユーロ円          | 111.11           | 115.69           | 4.12%  |
| ユーロドル         | 1.1051           | 1.1035           | ▲0.14% |
| 豪ドル円          | 76.10            | 79.48            | 4.44%  |
| ＜商品＞          | 先々週末             | 先週末              | 前週比    |
| 商品（CRB指数）     | 187.17           | 188.86           | 0.90%  |
| 原油先物価格（WTI）   | 45.41            | 45.95            | 1.19%  |

#### ＜株式＞

世界の株式市場は上昇しました。6月の米雇用統計で雇用者数が大幅に増加したことを好感した流れが続き、多くの市場で英国の欧州連合（EU）離脱選択以前の株価水準を回復しました。米国株式市場では、NYダウの終値が18,516ドルとなり、過去最高値を更新しました。欧州株式市場のドイツDAX指数は、10,066ポイントと、大幅に反発しました。中国株式市場では、上海総合指数が心理的な節目の3,000ポイントを上回り、約3か月ぶりの高値水準となりました。日本の株式市場では、参院選挙の与党大勝、円安進行や欧米株高が好感され、日経平均株価は9%を超える大幅上昇となりました。

#### ＜債券＞

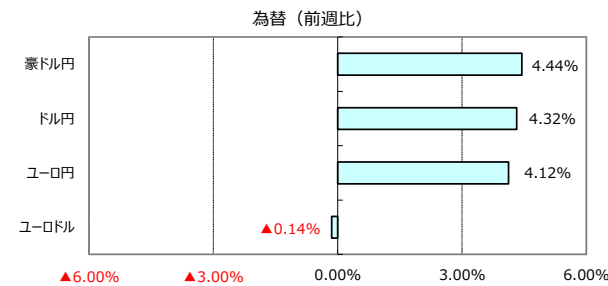
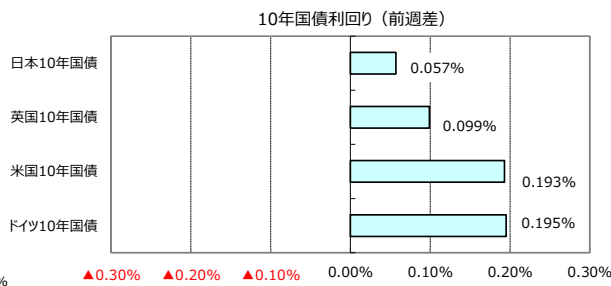
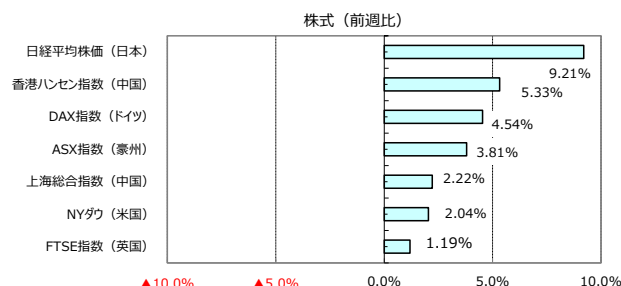
日米欧の長期金利は大幅に上昇しました。株高を背景に投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、安全資産である債券が売られました。米国10年国債利回りは1.551%で引け、約3週間ぶりの高水準となりました。ドイツ10年国債の利回りは0.006%で引け、プラスの利回りに戻りました。日本の10年国債利回りは、▲0.225%に上昇しました。

#### ＜為替＞

円相場は大幅に下落しました。参院選挙の与党勝利を受け、安倍首相が追加の経済対策を示唆したことや株高基調が続いていることを背景に投資家のリスク回避姿勢が後退し、安全通貨とされる円が売られました。ただし、週末に、トルコで軍の反乱が起き、円はやや反発しました。円相場は、対ドルでは104円台後半で取引を終えました。対ユーロでは、115円台後半で引けました。

#### ＜商品＞

原油先物価格は、45.95ドルと前週末比で小幅上昇しました。原油需給が緩むとの観測は根強く、上値は重かったものの、株式相場の上昇基調を受けて、反発しました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



【2016年7月11日～7月15日】

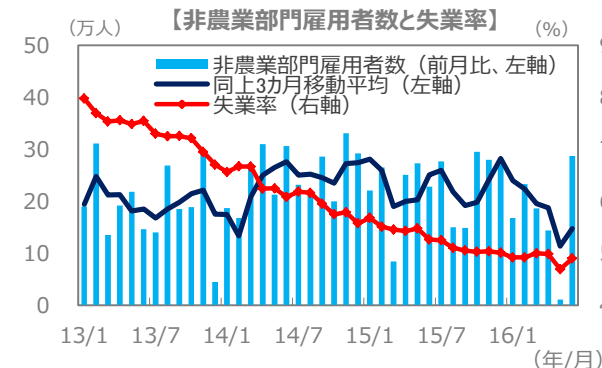
## 2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

|          | テーマ                          | ポイント                                                                                                                                                                                                                     |
|----------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/11 (月) | 先週のマーケットの振り返り                | 2016/7/4～7/8マーケットの振り返り                                                                                                                                                                                                   |
| ☆        |                              |                                                                                                                                                                                                                          |
| 7/11 (月) | 米国の雇用統計 (2016年6月)            | 1. 雇用者数は28.7万人増、増加基調に変化は見られない<br>2. 失業率は4.9%、賃金上昇率は前年比+2.6%<br>3. 【 <b>景気は緩やかに拡大</b> 】米景気は拡大が続いていますが、この先、利上げはあっても、ペースは緩慢で、少なくとも7月利上げの可能性は低いと見られます。株価は当面、景気、企業収益の拡大を織り込む展開、国債利回りも低い水準にとどまる見通しです。                          |
| 7/12 (火) | 主要国・地域のリート市場の最近の動向 (2016年6月) | 1. グローバル市場は続伸、為替は大幅なマイナスに作用<br>2. 欧州は大幅に下落、北米、オセアニア、アジアは堅調<br>3. 【 <b>欧州を除き低金利、不動産市場の好調がリートをサポートへ</b> 】主要中央銀行の緩和的な金融政策が引き続きグローバル・リート市場をサポートしており、欧州を除き、市場は堅調な推移が見込まれます。欧州は英国のEU離脱選択の不透明感から、安定感に欠ける展開が続く可能性があると見られます。      |
| 7/13 (水) | 米国の株式市場 (2016年7月)            | 1. NY株式市場が史上最高値<br>2. 今後は企業業績に注目<br>3. 【 <b>上昇局面が続く可能性</b> 】米国経済は緩やかな景気拡大が続く見通しです。こうした環境の中、産業構造の変化に注目が集まりそうです。今後は、ロボティ化、人口知能 (AI) の活用などといった新たな技術が産業構造の変革を促進すると期待され、上昇局面を支えると考えられます。                                      |
| 7/13 (水) | 「アジア」マクロの魅力再評価①              | 1. 英国の欧州連合 (EU) 離脱ショックでもアジア金融市場は比較的安定<br>2. 「Brexit」によるアジア経済への影響は軽微<br>3. 【 <b>焦点の中国景気は持ち直す見込み</b> 】中国景気は下振れ懸念がなかなか払拭できないものの、現在発生している洪水対策の必要性などから、景気支援型の政策方針に転換しつつあると見られ、2016年後半には中国景気が持ち直す見込みです。アジアの景気下振れリスクは限定的と見られます。 |
| ☆        |                              |                                                                                                                                                                                                                          |
| 7/14 (木) | 金価格の動向                       | 1. Brexitで金価格は一段高、安全資産として金が選好される<br>2. 円ベースの金価格は横ばい、ドルベースの上昇を円高が相殺<br>3. 【 <b>米国の金融政策が当面の金価格のカギ</b> 】今後の金価格は、米国の長期金利や米ドルの動き、すなわち米国の金融政策や地政学的リスクなどの影響を受けると見られます。金価格の動向は、金融市場に対する投資家の心理状態を推し量る参考になります。                     |
| 7/14 (木) | 「アジア」マクロの魅力再評価②              | 1. 主要アジア諸国・地域の多くは経常収支が黒字<br>2. 外貨準備高に対する短期対外債務残高が減少<br>3. 「Brexit」(英国のEU離脱) のショック直後、アジアの金融市場が比較的安定していた背景として、多くのアジア諸国・地域では、経常収支の改善、短期対外債務残高の減少により、通貨が安定する土台ができていくことが挙げられます。                                               |
| 7/15 (金) | BOEの金融政策 (2016年7月)           | 1. 7月は据え置き<br>2. 8月の金融緩和を強く示唆<br>3. 【 <b>基調はボンド安か</b> 】英国の長期金利は、景気の減速懸念とBOEの金融緩和に対する期待から大きく低下しましたが、これからは実際の景気悪化度合いやさらなる緩和期待の高まりなどから、低下圧力が続く予想されます。ボンドも、金融緩和期待の持続から、基調としてボンド安が続くと考えられます。                                  |
| 7/15 (金) | 「アジア」マクロの魅力再評価③              | 1. アセアンでは公共投資の高い伸びが続く<br>2. 米国の利上げ観測の後退でアジアに追加金融緩和余地<br>3. 【 <b>アセアン、インドでは中長期的に消費市場の拡大が見込まれる</b> 】アセアン、インドの生産年齢人口の比率は、2030年にかけて上昇傾向もしくは高水準を維持すると予想されています。アセアン、インドでは、人口増が経済の中長期的な強みとなることが見込まれます。                          |

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。

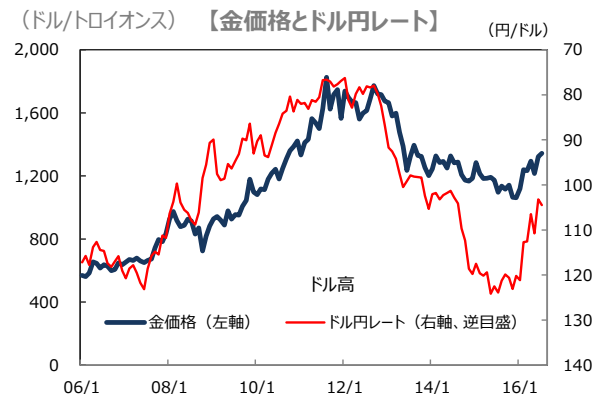
## ☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆7/11米国の雇用統計 (2016年6月)  
雇用は増加の勢いを回復



(注) データの期間は2013年1月～2016年6月。  
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆7/14金価格の動向  
Brexit (英国のEU離脱) 選択後も底堅い推移



(注) データは2006年1月～2016年7月（月次）。  
2016年7月は13日のデータ。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



【2016年7月11日～7月15日】

## 3. 今週の主な注目材料

| 日付          | 米国                                                     | 日本                                          | 欧州                           | アジア・オセアニア・その他                  |
|-------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 7/18 (月)    | 7月NAHB住宅市場指数<br>米共和党大会（18-21日） ☆                       |                                             |                              | 中国6月70都市住宅価格指数 ☆               |
| 7/19 (火)    | 6月住宅着工件数                                               |                                             | 独7月ZEW<br>英6月消費者物価指数、生産者物価指数 | トルコ金融政策決定会合                    |
| 7/20 (水)    |                                                        | 6月全国百貨店売上高<br>6月コンビニ・スーパー売上高<br>6月訪日外国人客数 ☆ | 独6月生産者物価指数<br>英6月失業率         | ブラジル金融政策決定会合                   |
| 7/21 (木)    | 7月フィラデルフィア連銀指数<br>6月中古住宅販売件数<br>5月FHFA住宅価格<br>6月景気先行指数 | 5月全産業活動指数                                   | ECB金融政策決定会合 ☆<br>英6月小売売上高    | 南ア金融政策決定会合                     |
| 7/22 (金)    |                                                        |                                             | ユーロ圏7月PMI<br>独7月PMI          |                                |
| ☆<br>今週の注目点 | 米国の大統領候補を決定する共和党大会が注目されます。                             | 消費動向を見るうえで、訪日外国人客数が注目されます。                  | ECBの金融緩和があるかが注目されます。         | 中国の景気動向を見るうえで、70都市住宅価格が注目されます。 |

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デیلیー」

2016年 7月11日 米国の雇用統計（2016年6月）【デیلیー】

2016年 7月14日 金価格の動向【デیلیー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2016年 7月11日 先週のマーケットの振り返り（2016/7/4-7/8）【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2016年 7月 4日 先月のマーケットの振り返り（2016年6月）【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2016年 7月14日 「AI」で第4次産業革命（日本）【キーワード】



【2016年7月11日～7月15日】

## 【重要な注意事項】

### 【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

#### ●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

#### ●投資信託に係る費用について

**ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。**

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78%（税込）**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08%（税込）**

… 信託財産留保額 **上限3.50%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834%（税込）**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託（基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。）における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休業日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2016年4月1日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。